

南アフリカ 2025年の柑橘類輸出は22%増加

[FreshPlaza](#) 2025年11月11日

南アフリカの柑橘類産業は、2025年に史上最大の輸出シーズンを記録し、国際市場向けに2億340万箱(15kg/箱)を出荷した。これは2024年比で22%の増加であり、業界が4月に予測していた1億7,120万箱を大きく上回る結果となった。

この増加は、好天、成園化が進む果樹園、物流の改善に加え、果汁用オレンジ及びレモンの需要の増加、北半球の供給終了時期の早期化等が要因であるとされている。

南アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)のCEOであるボイツォコ・ンツァベレ博士によると、港湾のパフォーマンスの向上が中心的な役割を果たした。(以下「」は同博士の話)

「物流効率の向上、特に港湾の効率の改善は、港湾を管理する運輸公社(Transnet)の取り組み、主に新設備への投資と生産性に連動した従業員インセンティブの導入によって達成された。船会社を含むすべての物流関係者による高いレベルの協力により、生産性の高い物流環境が形成された。」

農場では、水利用の改善、病害虫管理の向上、及びネット被覆による栽培面積の拡大が、出荷率と果実品質の向上に寄与した。

2025年の結果は、2032年までに2億6千万箱の輸出と10万の新規雇用の創出を目指すCGAの「ビジョン260」戦略を若干上回るペースで進行している。

ンツァベレ博士は、今シーズンのお荷は好調であったものの、市場環境は依然として不安定であると警告した。

「生産者達は引き続き、予測困難な価格や市場動向、投入コストの上昇、さらに高関税や科学的根拠に基づかない植物防疫措置などの市場アクセス問題に直面している。」

米国が導入した30%の関税は、今シーズンのお荷の大半が完了した後に発効したため、影響は限定的であった。しかし、同氏は2026年の貿易に対する制約となる可能性を懸念している。

「我々は、2026年シーズンにおける30%の関税の影響を非常に懸念している。そのため、米国と南アフリカとの間で相互に利益となる貿易合意を早急にまとめる必要がある。」

同氏は、柑橘類またはすべての季節性の青果物に対する関税免除が、米国市場における価格上昇圧力の回避につながる可能性があるとして付け加えた。

南アフリカは2025年に、グレープフルーツ1,530万箱(2024年比7%増)、マンダリン5,350万箱(28%増)、レモン4,130万箱(19%増)、ネーブルオレンジ3,150万箱(25%増)、バレンシアオレンジ6,180万箱(前年の4,870万箱から増加)を輸出した。

CGAのヘリット・ファン・デル・メルウェ会長は、中国、インド、日本、韓国、EU、米国等の主要市場へのアクセス拡大が、今後の業界の成長にとって引き続き極めて重要であると述べた。

出典: Biz Community